



令和3（2021）年度「不登校を考える学習会」（第3回）を行いました。

2022. 3.26(土) 小都市生涯学習センター 七夕ホール

演題：自分を誇れる子育てとは ～ フリースクールでの出会いを通して ～

講師：NPO法人 みんなの学び館

ふくながたくじ 福永宅司さん・ふくながちえみ 福永千恵美さん

今回の学習会は、福永宅司さんの一人芝居と福永千恵美さんの講演の2部構成で行いました。

福永宅司さんは、教師時代に始めた人権啓発一人芝居が話題となり、全国各地2,500回を超える公演を展開しておられます。今回は、山田洋次監督作品の『15才 学校IV』の一人芝居を通して、思春期の少年が出会った大人たちの姿を通して自尊感情を高める大人の関わりについて、会場のみなさんと考えました。

福永千恵美さんも元教員で、3年前に「みんなの学び館」というフリースクールを立ち上げました。具体的な子どもの活動の様子や、悩む保護者が駆け込んで話せる場の必要性などをお話してくださいました。

学習会の内容を以下に記します。



○ 多様な価値観に触れ、存在を認められる大切さ

『15才 学校IV』のあらすじ

「何で学校に行かなきゃいけないんだ。素直で、賢くて…。そんな子だけがいい子なのか？」そんな心の叫びを抱えた中学生の川島大介は、学校に行かなくなって半年になる。ある日彼は、九州・屋久島の縄文杉を目指して旅に出た。そして、旅で出会った大人達から勇気をもらっていく。学校にも家にも居場所のない少年が、旅を通して成長していく姿を描いた物語です。

少年が本来持っているやさしさ、人の心の痛みがわからない大人に対して意見することができる力などに対して、その良さを認める大人の姿がありました。また、出会う大人も様々な悩みを持っており、自分を語る大人の姿に触れることでも、少年が成長していきます。

福永宅司さんは、本作を演じた後、大人の言動によって子どもの自尊感情が変化していくこと、人の心の痛みがわかる人であることの大切さを話されました。会場には、涙を流して演目を見られる方も多くおられました。



○ 保護者の悩みや願いを社会全体の課題として

学習会の第2部は、福永千恵美さんより、フリースクールでの理念や実際の活動の様子をお話しいただきました。

「集い、学び、体験し、すべての子どもに安心と自信を」という理念のもと、学習だけでなく、ボードゲーム等のレクリエーションを通して、コミュニケーション力と安心して失敗できる経験（負ける経験）も高めています。また、ギリギリまで我慢して自分を表現できない子どももいるので、表現活動も行っています。

得意なことと苦手なことの凹凸が大きい子どもが不登校になることも多いのですが、「今からの時代は凹凸が大きい方が良い」と

いう意識で、弱さにゆっくり寄り添うことを大切にしてほしいという話がありました。フリースクールでは、学校だけでなく図書館・公民館等の公共施設、教育系の大学との連携を図っています。

また、不登校の子を持つ保護者は、「ひきこもりになるのでは」という不安があったり、パニックになって誰に相談したらいいかわからなかったり、学校の音が聞こえるのが嫌という理由で昼間は子どもが寝ていたりという悩みがあります。だから、そうした保護者の悩みや願いは社会全体の課題として、「自分に関係ない」と思わず考えてほしいというお話がありました。



参加者アンケートより

- 一人芝居、すごい良かったです。泣いてしまいました。フリースクールの映像での子どもたちの笑顔にビックリしました。
- 一人芝居では、不登校の子に対して客観的な目で見ることができ、あらためて自分の子の気持ちが分かる気がしました。
- 小中学生は特に学校と親との狭い価値観の中にとらわれがちにしてしまいますが、様々な体験やいろいろな価値観に触れることの尊さに気づかされました。
- 自尊感情があらためて大切と思いました。みんなの学び館の理念である「安心と自信」は教育の原点ですね。
- 元 不登校の子の保護者として、何かお力になれることがあればと参加させていただきました。これからの社会状況、ますます増えていく不登校の子どもたちと親を手助けできる機会や場所があればと切に思います。
- 子どもの成長には、関わる大人たちの言動の影響が大きいと感じました。大人がありのままの自分を示すことで、子どもたちがそれを感じ取り、成長へとつながるのではないかと思います。
- フリースクール みんなの学び館の内容を知ることができて良かったです。学校や地域との連携の必要性・重要性をあらためて感じました。まずは不登校の子の理解からですね。

○ 学習会を終えて

本来は2月に行う予定だったのですが、新型コロナウイルス感染症の影響で、この日に延期しました。年度末という日程と悪天候が重なり、厳しい状況でしたが多くの方にご参加いただきました。

今年度は3回の学習会を行いました。会の中で、「こうあるべき」という価値観に悩む子どもたち、我が子の不登校により自分（の子育て）を責める保護者の声が聴こえてきます。多様な見方を大切にしたいという思いはあっても、周りの目を気にしたり、「立派な子育てをしなければならない」という圧によって相談ができなかったり、どうしたらいいのかわからないと悩む方が多くいることも感じました。

だからこそ、今回の学習会で言われた悩む方が駆け込んで話せる場を、それぞれの立場で連携し合いながらつくるのが大切だと感じました。（実際に、そういう動きをしてある方も市内におられ、頭が下がります。）次年度もこうしてみなさんと集える場をつくりたいと思いますので、お時間許せばぜひご参加ください。

